

平成 25 年 2 月 5 日 00104 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター 新年挨拶



特定非営利活動法人 北見市武道振興協会 理事 伊藤隆史

あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

今年は念願の武道館建設工事も始まり、秋には完成予定となりました。これも一重に尽力された関係各位及び役員・会員の皆様方に心より感謝致します。これを機に武道会の益々の繁栄を御祈念申し上げます。

【事務局情報】柔道外部派遣講師 1年生スタート

今年の1月22日(火)午後より、北見市立東陵中学校の1年生体育授業(武道必修化)の、柔道が外部指導者を交えて始まりました。東陵中の1年生はA,B,Cの各3クラスがあり、生徒数は1クラス約32人、男女同時に柔道授業を受けます。全ての生徒が柔道経験は初めてで、柔道の基本指導を受けています。特に、1時間目授業のオリエンテーションでは、教員指導者と外部指導者より、武道精神である、相手を尊重する礼法の大切さや、思いやる心の大切さの説明や怪我をしない為の受身の大切さの説明がなされ、生徒全員が真剣に話を聞いていました。また、2~4時間目にかけては、怪我をしない為の受身を中心とした練習に加え、「投げの形」等の初歩的な「体捌き(足さばき)」を行いました。教員指導者の穴田教諭は「『生徒の興味や関心に応じながら、正しい知識や技能、精神を伝えられることを実感しています。また、佐藤さんとの複数体制の指導が安全で楽しい柔道につながっているため、大変充実した授業が展開できていると感じています。協力が得られ、ありがたく思っています。』また、生徒たちは『柔道って思っていたよりおもしろい』『思いやりが大切だということがあった』『受け身が上手にできるようにしたい』など、今回の柔道との出会いを通じて多くのことを学び、そして感じてくれています。」と、ご自分の感想と生徒へのアンケートを取材してくれました。(山本)



連載 宮本武蔵の「五輪書」 四 兵法の拍子の事より 地之巻

何事につけ拍子というものがあるが、とりわけ兵法の拍子は、鍛練しなければ身につかないものである。世の中で拍子が現れているものに、能の舞や楽人の演奏がある。これは拍子が合うことによって、正しい拍子となっている。武芸の道でも、弓を射る、鉄砲を撃つ、馬に乗ることに、拍子と調子とというものがある。すべての職能で、拍子が狂うようなことはあってはならない。また、目に見えないことにも、拍子がある。武士の身の上ならば、奉公で出世する拍子、落魄の拍子、息が合う合わないの拍子がある。あるいは商の道では、財産家になる拍子、その財産を失う拍子と、それぞれの道で、拍子は違うものなのだ。物事が栄える拍子、衰える拍子。よく理解するようにせよ。兵法の拍子には、いろいろなものがある。まず、相手と合う拍子を知って、相手の呼吸をはずす拍子を理解する。大小遅い早い拍子のなかに、合った拍子、間の拍子、相手の拍子を崩す拍子を知ること。これが兵法の秘訣である。この、相手の拍子を崩す拍子を会得しなければ、たしかな兵法にならない。兵法の戦いは、敵の拍子を知り、敵の思いもよらぬ拍子で、空の拍子を知恵の拍子より発して勝つようになる。(この書物の)いずれの巻きにも、拍子のことを詳しく書き記す。ここに書かれたことを理解して、よく鍛練するようにせよ。つづく

